

# 謹賀新年

令和八年 丙午

## 銀 杏

発行所

〒792-0835

新居浜市山根町8番1号

曹洞宗瑞應寺専門僧堂

編集発行 瑞應寺

電話(0897)41-6563

FAX(0897)40-3127

<https://zuioji.jp>

毎月1日発行

(振替 01330-2-31918)

瑞應寺

印刷所 東田印刷株式会社

元正啓祚

萬物咸新

成道会

佛國山瑞應寺

住職 金岡 潔宗

東堂 村上 徳存

寺選総代 河端 宏二

東前 高志

住友金属鉱山株式会社  
別子事業所総務センター長

地区総代

一区 三浦 廣志

二区 本田 龍朗

三区 大條 雅久

四区 網干 俊治

五区 篠原 元久

六区 伊藤 数義

七区 藤田 理

八区 鴻上 紳一郎

九区 高橋 良光

瑞應寺専門僧堂

堂長 村上 徳存

堂監 門原 信典

監事 阿部 信宏

瑞應寺護持会

会長 大條 雅久

学校法人ひかり幼稚園

同 保護者会



秋の山門



## 頌

## 春

瑞應寺住職 金岡 潔宗



福寿無量 萬福多幸

新年明けましておめでとう  
ございます。新年を修行僧と共に迎える  
ことができましたこと、有  
難いことだと、この身の法幸  
を感謝いたしております。今年は午年です。馬にまつ  
わる話をしたいと思います。馬は、従順・優しい目や  
顔・人の心を見抜く能力が  
あると言われ、古来より親し  
まれてきました。聖徳太子は、  
牧場で馬を育てていて、甲斐  
の黒駒を愛馬としていたそう  
です。黒駒というと、私が生まれ  
育った岐阜県の飛騨一宮水無  
神社には、稲喰神馬（黒駒）という名匠「左甚五郎」の作  
と言い伝えられる馬が奉納さ  
れています。その馬は、生きている馬の  
ように、毎夜厩舎を出て農作  
物を荒らし、収穫の頃の稲穂  
を食べたとして村民が黒駒の  
両目を抜き取ったところ、以  
来耕作地を荒らすことが止ん  
だと伝えられ、極めて素朴な  
作りですが、地域の人々から  
は、神馬として大切にされて  
います。馬を奉納することは、古代  
日本において神様が馬に乗っ  
てこの人間の世界に降りてく  
ると考えられていたことにあ  
ります。奈良時代には、神様にお願  
いする際に「神馬」と呼ばれ  
る生きた馬を奉納する風習がありましたが、生きた馬を奉  
納することが難しくなり、次  
第に馬の絵を描いた板が代用  
されるようになりました。こ  
れが「絵馬」の始まりです。現代は、絵馬に願い事や感謝  
の気持ちを表し、神社仏閣に  
奉納し神と人をつなぐ手紙の  
ような存在になりました。さて、お釈迦様は、人々に  
四種の馬の譬喩（たとえ）を  
示されました。一番目の馬は、騎手が鞭を  
振りかざしたその影を見て走  
り出す最も優秀な馬。二番目の馬は、鞭が毛の先  
に触れてから走り出す馬。三番目の馬は、鞭が肉に触  
れてから走り出す馬。四番目の馬は、鞭を何度  
打つても気が付かず肉を裂き、骨まで達してやっと走り  
出す馬。第一の馬は、遠い町で亡く  
なった人があることを伝え聞  
いて、それを自分の死のこと  
を考え、うかうかしてはおれ  
ないと本気で人生に取り組む  
人のことをいいます。第二の馬は、自分の町で亡  
くなつた人が出たことを聞き  
自分のこととして受け止める  
人のことをいいます。第三の馬は、自分の愛する  
親族や友人の死を眼の前にし  
てようやく自分も死ぬのだと  
自覚し行動を表す人のことを  
いいます。第四の馬は、自分自身が、  
いよいよお迎えが近いことを  
知って初めて人生について考  
える人のことをいいます。

皆さんはどの馬ですか。

道元禪師は「光陰は矢より  
も迅<sup>すみや</sup>かなり、身命は露よりも  
脆<sup>もろ</sup>し」と説かれています。時  
間が刻々と過ぎゆくさまは矢  
よりも迅（はや）く、また、人の一生は草に宿る朝露より  
もはかないという意味です。  
お釈迦様の教えや道元禪  
師の教えのように、今年一年、  
一日一日大切に過ごし、すべ  
てが、ウマくいくよう努めた  
いものです。

# 年々歳々、 歳々年々

後堂 門原 信典

「年々歳々花相似 歳々年々人不同」(年々歳々花相似たり 歳々年々人同じからず)

これは古代中国の劉庭芝「白頭を悲しむ翁に代わりて」と云う詩の中の一節です。「白髪の人」の悲しみを通して、年ごとに花は変わらずに咲くけれども、それを見る私達は身体も心も年ごとに変わっている「過ぎゆく時間の中で永遠に変わらない自然と、そして限りある人間の無常の悲しさを対比させている」と読まれています。しかし私は「花相似たり」と「人同じからず」は同義ではないかと思えます。この詩からの学びを年頭のご挨拶とさせていただきます。

境内の梅花は今年も同じ様に咲くけれど、相似ているだけで昨年と同じ花が咲くわけではありません。確かに毎年の花びらの一つ一つの様相は変わりませんが、枝ぶりも違えば、年によつては実の成り様も当然違いま

す。「梅は寒苦を経て清香を放つ」変わらないのは、梅と云う木の生命の営みとして、今年もやがて花開き、清浄な香りに包まれると云う事です。この私はどうか、確かに昨年の私と今年の私も同じではありませんが、相似ています。それどころかこの世界の生物、無生物の全ては時々刻々滅しては生じ、生じては滅しているのです。

これを刹那生滅と云います。この刹那と云う瞬間は指をパチンと鳴らす間に六十五あるそうです。

俱舎論と云う婆修盤頭大和尚(世親菩薩とも云われます。四〇〇・四八〇年頃のインドの人で、お釈迦様から二十一代目の仏祖)が書かれた仏教書には、百二十刹那を一恒刹那、六〇恒刹那を一臘縛、三〇臘縛を一牟呼栗多、三〇牟呼栗多が一昼夜二十四時間です。これを計算すると一刹那是今の時間で約

〇・二三秒、七十五分の一秒です。現在速さを競うスポーツでは百分の一秒まで計測されますが、音楽の世界でもその百分の一秒の変化で曲相が変わってくるそうです。という事は私達が何となく感じ取れる最小の時間なのかも知れません。更に一刹那が一念と云われます。心が動く、思いが湧き上がる瞬間の事です。「念」と云う字は「今の心」と書きます。心も刹那に生滅していくのです。これを知る事によつて、私達は如何に生きるかに導かれるのです。

通元老師の「正法眼蔵道心の巻」の御提唱で「この生の終わる時には、二つの眼たちまちに暗くなるべし。その時をすでに生の終りと知りて、はげみて南無帰依佛と称え奉るべし。この時、十方の諸佛哀れみを垂れさせたもう」の一節を「昔はたいてい自宅で亡くなられた。臨終の時に家族は、その人の耳元でおりんをチーンと鳴らす。それは最後の最後に佛心呼び起こすことだ。南無の一声でも良い、この一念こそ大事」とお示しでした。最後の刹那、南無帰依佛の一念で十方の諸佛が救ってくださるのです。

刹那を大事にする事は、一念を大事にする事。大事にするとは、この一念に貪瞋痴が潜んでいないか、誓願を持っているか、常に自我と対峙する事です。この一念こそが私の身口意の三業を育て新しく生きるのです。

「念三千」の言葉通り、この一念の中身は三千大千世界。つまり無限の生命、時間、空間です。普通云われる刹那主義とは真反対です。

こんな事じゃ駄目だとクヨクヨしたり、それでも生きて行こうと葛藤するのも一念です。たとえ苦悩の内にあつても、そこからの感情や思いも大切にしていれば懺悔と誓願に生きる。「相似たり。同じからず」とは、花(自然)も私達の生命も当たり前の如く運命を受け入れて時々刻々生きようと努力している事です。

瑞應寺の樹齢八百年の大銀杏樹も昨年の夏に大きな枝が折れてしまいました。しかし年々歳々変わらずに葉は茂り沢山の銀杏も生り、十二月には葉が散り黄金を敷き詰めたように成りました。

大銀杏も自然界の苦難にあつても銀杏としての一念、生命の営みを刹那に行じています。私

達の身体も心も刹那に変わり続けていますが、佛道修行に変わりは無いのです。人生も同じです。何時如何なる時も生命の営みは変わらないのです。

私は昭和五十五年の臘八摂心から参禅させていただいておりましたが、途中八年間通う事が出来ませんでした。しかし、再び参禅した時、歳々年々修行僧は入れ替わりがありますが、何年経つても全く変わる事無く続く綿密の行持に「これがこの瑞應寺の家風だ」と胸が熱くなり、私の「安心」として、更に坐禅への思いが篤くなりました。

近年修行僧も少なくなってきましたが、道を求める心を忘れずに瑞應寺の家風を相続してまいるたいと願っています。「苔の一念岩をも通す」本年も皆様の参禅をお待ちする一念年です。

合掌





## 年頭所感

謹んで新春のお喜びを申し上げます。本年も何卒よろしくお願いいたします。

## 除夜偶作

老蛇欲去馬将来

(老蛇去らんと欲して、馬將に來たらんとす)

除夜鐘声送旧廻

(除夜の鐘声、旧を送りて廻る)

雖互賀詞欣改歳

(賀詞を互して改歳を欣べども)

独慙到处課題堆

(独り慙ず、到る処課題の堆きを)

巳(へび)の年を見送り、午(うま)の年を迎えました。

顧みるに、昨年は諸事に追いたてられるように多用で、自坊の整備も作務も、僧堂の行持も、自己の研鑽も、全てが中途半端のままに過ぎてしまい、毎年の課題が未消化のまま堆く積もつてしまいました。

修証義に「願生此娑婆国土し來たれり、見釈迦牟尼仏を喜ばざらんや」とあり、また、正法眼蔵八大人覺に「南洲(娑婆世界)の人身すぐれたり、見仏聞法出家得道するゆえなり」と、いずれも道元禪師さまのお言葉です。

累世の誓願果か、既にお坊さんとして、お釈迦さまの教えをいた

だくご縁が具わっています。道元禪師さまの仰る最高に喜ばしい、すぐれた環境です。精進してまいります。

監事 阿部信宏

新しい年の始め、有縁皆様の方福多幸を祝祷し、併せて日頃のご道情に感謝申し上げます。

平成十二年に瑞應寺専門僧堂へ

安居した折、法幢師様より「抜群無益」とご揮毫いただいた緒子を掛け上山いたしました。

高祖様は辨道法に

『動静大衆に一如し、死生叢林をはなれず。群をぬけて益なし、衆にたゞは儀ならず。』とお示しです。

行持道環、只管に日を行じる

所存でございますので、本年も何卒宜しくお願い申し上げます。

監録 坂上興道

昨年の夏安居より配役をお預かりし、今一度瑞應寺にて修行をさせていただくご縁を頂戴しました。

大凡十年ぶりとなる僧堂での修行生活。鳴らし物や法要の進退、行鉢の作法等、忘れていることが

多々あり、そんな自分自身を情けなく感じ、日々の行持を積み重ねることが如何に大切であるかを痛感する一年でありました。

しかし同時に、日々の行持を一つ一つ思い出す中で、初めて仏道修行に触れた頃、出家をした頃の初発心に立ち返る思いがありました。仏教に出会えた有難さ、修行道場に身を置くことの出来る喜びを、改めて感じる。そのような一年でもありました。

二 発菩提心を百千万発するなり

今年一年、雲水さん方とともに、何度も何度も仏教に出会えた喜びを感じるこの出来る一年でありたいです。

講師 曾根慎吾

今感じていることは、自分の身体を整えることの大切さです。普段から書簡やメールの末文に相手を気遣う文言を並べていますが、自身の事には全く無頓着に過ごしていたように思います。巷では、持続可能な…。とか、ライフワークバランスが…。などと言われてるのをしばしば耳にし、予定を一杯入れて頭が回らなくなった自身を省みれば、ますます整えなければと思わされます。

瑞應寺僧堂では、少人数で行える差定で僧堂の行持が続けていて、人

員を要する法要を行う機会は少なくなつたものの、雲納さんがいれば、日常底はほとんど変わらない修行を行つていきます。くたびれた中年僧にとつては自分の身体だけが年老いたように感じさせられる事も間々ありますが、まじめな雲納さんだと半日程で色々なことが出来る様になるので、何とか僧堂の行持に随喜させて頂いております。

宗門には、「身心一如」身と心とは一体で、日常の様々な行いに心を込めて行う。という教えがあります。それは、身体の所作を整えることを通して、自然と心が備わることを目指すものです。まずは、自分の身体をしっかりと整えて僧堂の行持に臨みたいのです。

維那 吉松聖博

版下三聲二十霜 不離瑞應佛恩長  
来今往古大銀杏 丙午元朝風自香  
瑞應寺の木版を三打し、修行に参じて以来ちようど二十年。ご縁をいただいて、今もここに居させていただいている。日々を同じように過ごし、変わらぬつもりでも環境も身体も当時からすれば様々に変化している。

いつも眺めている僧堂横の大イチョウも台風や老化で大きな枝が落ちたりしているが、幹はいまも

どっしりと構え、お寺を見守つてくれているように思う。

そのような大イチョウの姿に倣つて、教えていただいたことをしっかりと受け継ぎ、八風吹けど動ぜず、気持ち新たにすべきことを務めていきたい。

知殿 古川承久

## 誠之

明けましておめでとうございます。昨年一年もあつという間に過ぎてしまいました。一年を振り返つてみるたびに「光陰虚しく過すことなかれ」という一説の教えが心に浮かんできます。この言葉が心に引つかかることは、自分の日々の生活が満たされてないこと、または歳月の無常が感じられる年齢になつていくことでしょうか。

今年は『中庸』の勉強会が予定されていますが、今を生きるより所のことば、新年を迎える励みのことばを一つ紹介したいと思います。それは中庸思想のキーワードとも言える「誠」ということばです。「誠」の意味は「至誠無息」という四字熟語が示すように、「この上ないまこと(至誠は、決して息むことない)」という誠実さの意味です。また、その「誠」は天地自然、または人間の本性の働きであると説明します。「誠者天之道也。誠之者、人之道也」

〔誠は天の道なり、これを誠にするは人の道なり。すなわち、天（大自然の営み）の道は誠実そのものであり、人間の道は天の道に従い誠実に生きるべきである。という意味です。〕

確かに、光陰（自然）の流れは、一年・十二月・三六五日（四季・二十四季節）として間違いないく着々と変化しながら休まず動いていきます（至誠無息）。その天の道（自然の営み）を先人は「誠」（誠実）という言葉で表し、その「誠」（天地）のなかで生きる人間はここを「誠」（誠実にする）すべきであるという人間の本性の生き方を示してくれています。おのずと感嘆してしまふ深い言葉ではないでしょうか。今年はこの言葉をより所にして精進してまいりたいと思います。

知殿補 金範松

逃げれば楽になる場面もあるけれど、それでは何も変わらない。うまくいかなくてもやってみる、怖くても一歩出る。そんな積み重ねを大切にして、挑戦を続ける一年にしたい。 悦事 三宅俊尚

新年明けましておめでとうございます。皆様は年末年始をどのように過

ごされたでしょうか？道場では毎月の十五日と月末の半月毎に自分の修行を振り返り、略布薩と云う懺悔と礼仏と誓願のお勤めがあります。そして十二月は、この一年の私の身口意の三業を振り返り懺悔し、来年こそは願いながら最後の布薩となります。本年の私の誓願は、道元禪師の「回光返照の退歩を学すべし」というお示しにあります。

自分の人生に、修行に不安が生じた時は、あせることなく二歩三歩退いて、謙虚に自らの在り方を振り返り、仏のみ教えに照らし合わせて自らの発心を顧みよ、と受けとめさせていただきます。

この世は無常無我の理の中にあります。その無常無我をいただいて、仏様に道を照らしていただき、皆様と一緒に至心に万事万縁と関わって一日一日を大切に過ごしたいのです。皆様の安らかな日々が続きますよう祈念し、皆様と共に同行同修の菩薩行を勤めてまいりたいと誓願し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

副典 楠本剛大

あけましておめでとうございます。あつという間に新しい年を迎え、月日が経つ早さを肌身で感じております。今年で出家して十七年目になりました。瑞應寺僧堂で過

していると、自分が尼僧堂で修行

していた時のことを思い出すことが多々あります。あの頃と、今と、少しは成長したかな？と考えてみると、大した成長もしないまま月日を経てしまった感じもあります。一つだけはつきりと言えることがあります。それは自分の中で、仏教と坐禅に対する信頼感が大幅に高まったことです。自分の人生そのものを通して仏教を眺めてみると、なんと素晴らしくこの世の理を示してくれているのだらう。と今になって思うのですが、若いころは頭で理解してはいても、実践が伴っておらず、その意味を分かっていたいなかったように感じています。今も道半ばではありますが、今年も精進してまいります。

受処主事 森香有

新年あけましておめでとうございます。瑞應寺はいつも私の修行をあた

たかく見守ってくださると同時に、「今のあなたはそれで良いのか？」と厳しく問いかけ、見つめてくださいます。そんな瑞應寺にご縁をいただいたことを改めて有難いと感じています。そして、問いかけをいただかないと身を正すことができない自分の力不足を痛

感じています。

修行とは特別なものではなく、日々の営みそのものが実践です。そして、私たちの毎日の中に、一つひとつの行いの中に「大切にすべきいのち」が息づいています。そんな一つひとつの大切にすべきいのちに真剣に向き合うことのできる自分であるよう今年も励んでまいります。

皆さまにとりましても、心穏やかで、互いに支え合い、いのちを尊ぶ一年となりますよう祈念いたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 書状 峯岡徳彦

### 大衆年頭所感

「別れる男に、花の名を一つは教えておきなさい。花は毎年必ず咲きます。」

この言葉は、ノーベル文学賞作家である川端康成の小説の一節で、人の記憶に深く刻まれる方法をとっても趣深く示しています。花が毎年咲くように、教えられたものは繰り返し思い出され、人生に息づいていくのです。

僧堂においても同じことが言えます。雲水はやがて僧堂を離れませんが、そこで学んだ合掌やお拜といった行持は、一生の営みとして

続いていきます。僧堂で身につけた行持を行うたびに、注意された場面や失敗した経験が蘇り、修行の日々が記憶と結びついて蘇るのです。川端康成の言葉風に言えば、「別れる雲水に、行持を教えておきなさい。行持は一生行われます。」とも言えるかもしれません。

私自身、修行を始めて一年しか経っていませんが、すでに「去年はこの行持でこう言われた」「あの時はここを失敗した」と思い返すことが多々あります。

だからこそ、自らの行持と結びつく記憶となる僧堂生活のこれからの一年を、後でふと思い返したときに「瑞應寺で修行できてよかった」、「あの頃の自分には負けられない」と思えるような、そんな充実した一年にしていきたいと思っています。

瑞應寺では今、銀杏が色づき、落ち葉で地面一面を黄色く染め上げています。参拝者の方々が寒空の下、興奮と寒さから少し顔を赤くしながら「まるで銀杏の絨毯みたい!!」と口をそろえておっしゃってくださいます。私がこの風景を見るのは今年で二度目になりますが、これから先の人生で色づいた銀杏を見て、瑞應寺のことを思い浮かべないのは難しいと思います。

首座 郡司泰晴



# 指に挟んで酸素を観る

## パルスオキシメーター命を守る電子の眼

東京巣鴨とげぬき地蔵尊高岩寺住職 医師 医学博士  
東北福祉大学客員教授 日本禁煙学会役員  
高岩寺 来馬 明規

### 【はじめに】

新年おめでとうございます。  
正月号のカラー印刷を活かして血液中の酸素を測る装置、「パルスオキシメーター」についてお話しします

### 【図1】。(1)(2)

パルスオキシメーターは体温計や血圧計のように日頃の健康管理に活用してほしい医療機器です。本稿では測定のおしくみや意義についてわかりやすく解説します。



図1 パルスオキシメーターを左の人差指に挟んで酸素飽和度を測定する筆者。脈拍は毎分66  $SpO_2$ は98%と読める。(三カミノルタ社 PULSOX Neo)

### 【酸素飽和度は大切な医療情報】

パルスオキシメーターは新型コロナウイルス感染症が流行した時に、重症者の早期発見と救命に活躍し、大きな話題になりました。当初は医療

従事者専用の機器でしたが、価格が手頃になって販路が広がり、今ではネット通販で入手出来るようになりました。筆者は二家に一台あつて欲しい機器だと思っています。みなさまの中にはすでに手元に置いて活用している方もおられることでしょう。

さて、私たちが体の不調を感じて医療機関を受診すると、初診受付で身長、体重、体温、脈拍、血圧などの基本的な臨床情報を調べますが、最近ではパルスオキシメーターの測定値である「 $SpO_2$  エスピーオーツ！」**経皮的酸素飽和度**を加えることが多くなりました。指に書類ばさみのような装置を5〜10秒ほど装着するだけで、脈拍数と血液中の酸素の飽和度を推定する値（ $SpO_2$ ）がたどころに得られ、病気の診断や重症度の把握に役立つからです【図1】。

【パルスオキシメーターの原理】  
では、どのように血液中の酸素を測っているのでしょうか？  
1. **動脈の血は赤く**  
**静脈の血は赤黒い**

私たちの血液が赤いのは、血の中に

ある酸素を運ぶ蛋白質「ヘモグロビン」が赤いからです。ヘモグロビンには酸素の多い少ないで色が大きく変わる性質があり、それは私たちの眼でも認識できます【表1】。たとえば**鼻血が赤いのは酸素が多い**、**動脈から出血した血液だからであり、病院で採血した血液が赤黒いのは酸素が少ない**。静脈から取った血液だからです。酸素が多い動脈の血はヘモグロビンが赤い光を素通り

	色	動脈 静脈	見かける機会
酸素の多いヘモグロビン	赤い	動脈	鼻血
酸素の少ないヘモグロビン	赤黒い	静脈	採血

表1 ヘモグロビンは酸素の多い少ないで色が変わる。

させるので、赤色になります。血液中で乱反射した赤い光が、私たちの眼に吸収されずに入るからです。

その一方、酸素の少ない静脈の血は、ヘモグロビンが赤い光を吸収するために赤い色が弱まり、黒っぽく見えます。

### 2. 血液は脈を打つ流れ「脈流」

私たちの体を流れる血液は、川の流れるように速さが一定の「定流」ではありません。心臓の拍動「ドキン、ドキン」にあわせて血液が「ビュッ、ビュッ」と流れます。このように速さや量が周期的に変化する流れを「脈流」と呼びます。周期的な流れの変化は手首の動脈で「脈拍」として触知できますが、この拍動は指先まで及び、指先の中の細い動脈が心臓の拍動に合わせて膨らんだり、しぼんだりし、指先全体の体積も0.5パーセントほど周期的に変化しています【図2】。

### 3. 皮膚の色は脈流と共に変化

つまり、心臓がビュッ、と押し出した酸素の多い赤い血は、指先の細い動脈をコンマ何秒間の間膨らませます。そして指先に「赤い血の割合」が増え、それが周期的で微妙な、指先の色の变化として現れます。

このような色の变化（光を通す性質の変化は、肉眼では認識できませんが、指先に発光ダイオード（LED）で赤い光を当て、指を通り抜けた光の量を

LEDの反対側から「受光素子」で受け取ると、肉眼では捉えられない変化を「電子の眼」で観ることができるのです【図2】。

このデータを数学的に処理すると、 $SpO_2$ の推定値を算出することができます。これを「動脈血のヘモグロビンの酸素飽和度」として表示しているのが $SpO_2$ です。 $SpO_2$ の正常値は95〜100%です。100%はヘモグロビンに酸素が目一杯ついた状態を意味しています。

### 4. 血液中の酸素が少ないと色の变化が少ない

指先の「赤色の脈動は病気によって弱くなります。たとえば肺炎やタバコ肺で血液に酸素を送り込む力が弱くなると「動脈血」と「静脈血」の酸素量の差が小さくなり、「色の差」も小さくなります。そうすると、指先の赤色の周期的変化も小さくなり、表示される $SpO_2$ の値も小さくなります。

### 【パルスオキシメーターの特徴】

さて、パルスオキシメーターの特徴をあらためて説明しますと、  
①  $SpO_2$ を採血せずに連続的に測れる  
② 装置が小さく携帯可能で安価である  
③ 体動、外部光の混入、血流低下・一酸化炭素などが、誤差の原因はよく知られており対策も可能などが挙げられます。

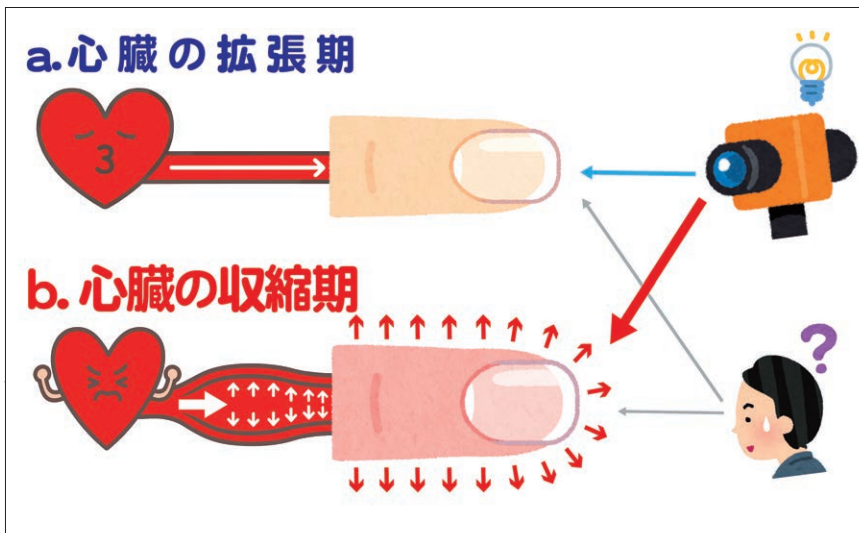


図2. 心臓の収縮に合わせて指先の赤い血の量が増えて 色と大きさが変化する。

- a. 心臓が休んでいるとき(拡張期)、心臓から指先に向かう血液は少ない。  
 b. 心臓が血液を送り出している瞬間(収縮期)、心臓から指先に向かう赤い血液が動脈の壁を押し拡げ、指先の色はより赤くなり、体積はより大きく(～0.5%)なる。この現象は「電子の眼」では見えるが(○)、「肉眼」では認識できない(?)。大きくなった部分が動脈の血液で充満していると仮定すると、 $SpO_2$  が計算できる。

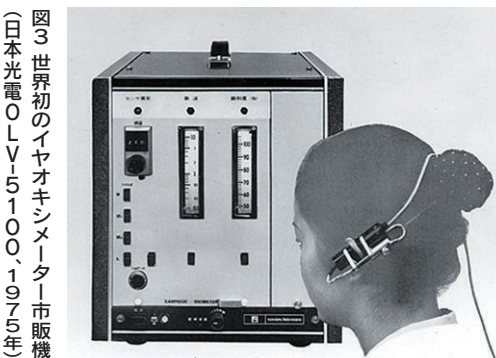


図3 世界初のイオキシメーター市販機  
(日本光電OLV-5100、1975年)

【パルスオキシメーターの開発者は  
日本の青柳卓雄先生】  
 心臓の拍動が作る脈流によって、指先の色や大きさが微妙に変化していることはかなり前から分かっていたが、この現象を応用して「動脈血の酸素飽和度を測定する原理」を世界で初めて発明したのは、日本の技術者、日本光電工業(株)の青柳卓雄先生(1936～2020)でした。  
 青柳先生は現在の新潟県新発田市出身で、新潟大学を卒業後に医療機器の開発に従事し、パルスオキシメーターの原理を1974年に学会発表、日本光電は初号機を1975年に発売しています。  
 50年前のパルスオキシメーターはとても大きな装置で、当時は耳たぶで記録していました【図3】。  
 その後、紆余曲折がありました。

世界中でパルスオキシメーターの研究が進み、結果として無数の人命が救われ、臨床医学の発展に大きな進歩をもたらしました。  
 生前、海外の研究者達がノーベル賞候補に推薦していたことが明らかになっています。ご存命であればノーベル医学生理学賞に値する業績でしたが、ご逝去が先になってしまいました。



図4 指輪型パルスオキシメーター  
 睡眠中の酸素飽和度、脈拍数、体動を長時間同時記録できる。測定データはスマートフォンで解析し睡眠中の無呼吸発作を在宅でチェックできるすぐれた製品。測定に用いる赤色LEDの光が見える。  
 (三栄メテイス社 チェックミリング)

#### 【お願い・予備の電池を備える】

○ パルスオキシメーターは必ず予備の電池と一緒に保管してください。電池切れの定期的なチェックが大事です。

○ スマートウォッチ、スマートホンに

アプリをインストールすれば、 $SpO_2$  が測定できますが、誤差が大きく、医療用としては正確性、信頼性に問題があるようですので、筆者はお薦めしません。

#### 【附記・くわしく知りたい方に】

パルスオキシメーターは赤色光と赤外光の2波長を計測していますが、本稿では簡略に説明しました。詳細は文献

(1) (3)や、ネット検索をご覧ください。

(1) よくわかるパルスオキシメーター 日本呼吸器学会編(2021)。

(2) Q&Aパルスオキシメーターハンドブック 日本呼吸器学会編。(1)(2)はホームページからダウンロード可能。

<https://www.jrs.or.jp>  
 (3) パルスオキシメータを活用した自己管理法 日本呼吸器障害者情報センター。  
<https://bnj-breath.jp/backnumber/oximeter.html>

(4) 高岩寺では多機能モニターや小型パルスオキシメーターを常備し、参拝中に具合が悪くなられた方の救急対応に活用しています。脈拍・血圧・体温などともに、 $SpO_2$  のデータを救急隊に提供し、救急外来を担当する施設と共有しています。

#### 【謝辞】

日本光電工業(株)様に、写真(本稿図3)を提供いただきました。ここに深謝申しあげます。

「青柳卓雄氏とパルスオキシメーター」  
 同社ホームページ。



# 師 真道隆邦 瑞應寺修行の思ひ出話より 其の貳

文責 山口県下松市 妙光寺住職

山 縣 洋 典



前回掲載させていただいた後、予想外に多くの方々からの連絡に吃驚致しました。殆どは、師へのお見舞いの言葉や励ましなどのお言葉でしたが、中には「隆邦耳事件？」の時、実際にその場に居り、とぼつちりで一緒に叱責された方から、笑いながらご連絡いただき大変恐縮した次第でもあります。

師は後年、思い出すと瑞應寺専門僧堂は正に当時宗門では最高の方々が、正に親身になって指導して下さったのに、その時はその有

難みが分からず、申し訳ない限りだつたと何度も悔いております。

何故なら教義講座や僧堂行持だけではなく、華やお茶の作法、梅花の手ほどき、また特に書道に関しては、修行僧の多くが熱心に学んでいたのであります。それは言うまでもなくその残された書が、未だに一般の方々さえも引き付ける、筆者の一光老師が在山されていたからに他なりません。

然しながら師は本人曰く、自分も一光老師からお手本を賜り懸命に励んだが、全く上達はしなかつたと繰り返し言っています。一緒に習い始めた周りの者は、皆それなりに上達し、來山者の記録簿や卒塔婆などをすらすらと書き込んでいくのを横目にみながら、忸怩たる思いで過ごしていたようです。

ある時、とうとう自分で卒塔婆を書き、ご法事に臨まなくてはならない時が来て、懸命に書いて持参し、供養の後瑞應寺様近くのお墓に施主と共に供えました。その

後、別件でお墓に赴き自分が書いた卒塔婆を見た際、周りの卒塔婆と比べてあまりにも下手に思えて、以降は努めてそれが目に入らないようにしました。

しかし数か月後、どうしても居た堪れなくなつた師は、こつそりと卒塔婆を書き直しお墓に行き差し替えたそうです。最もそれでも、納得する出来栄ではなかつたようです。

後年、師は拙の書いた卒塔婆の文字を見て、「まあ何事も向きの不向きがあるから、丁寧にゆつくり書くことだけは心掛けろ」とだけ少し自嘲気味にいつも言います。考えるに拙の自他ともに認める下手な卒塔婆をみる度に、この事を思い出ししているのだと感じます。

さて師の「号」は真道しんどうですが、これは橋本恵光老師から付与していただいたとの事です。老師より「真道」を賜つた師は、今日までこの号を誇りとして、仏道に

精進してきたのだと言います。そのきっかけとなつた話を聞いた事があります。

当時から恵光老師は、様々な行持に招聘され、在山日数より山外にての時間が多いのが実情にて、残念ながら日常山内にて上山当初は老師から、直接薫陶を賜る機会は殆どなかつたようです。

特に授戒会の戒師や説戒師の任に携わると、長期に亘り侍者と共に当該寺院に滞在を余儀なくされておられました。後世、真道の号を誇りとする原因は、その時おきた出来事に対しての老師の威厳ある言動に、侍者として随身していた師は心からの尊意が生じたからなのでしょう。

ある寺院の授戒会で説戒をされる際、侍者であつた師は、毎回恵光老師愛用の袱紗に経文を包み、戒尺などの仏具と一緒に所定の卓上に用意します。その後、いつものように時間となり高座に登られた老師は、袱紗を開

かれ経文を見て、戒尺を打たれて開経偈からの説戒は、滞りなく終えられました。

部屋に戻られた老師に対し、お茶を出しながら「お疲れさまでございました」と声をかけた師に「対し老師は笑いながら「経文が間違つていたよ」と、袱紗の中から「坐禅の仕方」と書かれた小冊子を手渡されたのです。それはその寺院の本堂入口にある山積みさんかみの参拝者用の坐禅手引き書でした。

師はその時、本当に心臓が止まるくらいのショックを受け、次の瞬間、誰か始まるまでのわ





ずかな時間に入れ替えたに違いないが、この場合侍者の不手際だと叱責されても仕方がないと観念したそうです。

しかし老師は続けて「隆邦さん、あなたが原因ではない事は分かっていますよ。心配しなくても大丈夫です。」言われ、どっと汗が体中から噴き出しました。それは、突然のアクシデントにも全く動ずることなく、その時の説戒をやり遂げられた老師への感嘆の気持ちと、自分に対しての温かい配慮からに他なりません。

余談ですが、この話を聞いた拙は「差し替えられた老師の経文は見つかったのか」と質問しました。経文は、程なく老師の部屋前の廊下にある茶箆の上で見つかり、師は当然直ぐに報告したそうです。それを聞いた老師は「それなら、それでよい」とだけ静かに返答され、その言葉の調子とお顔の表情から誰が差し替えたのか薄々分かっていく口ぶりにて、更に尊敬の念を強くしたとの事です。

前記いたしました様に、檜崎通元老師と師の尊き仏縁は老師が遷化されるまでの長期間に亘りました。今も拙は正直、以前から師があのお通元老師を「通元

さん」と気安く呼称する度に、少し羨ましく且つ恐れ多い事だと感じています。

数年に一度、師の所望にて通元老師に拝問するため、老師の在山を確認し二人で自車にて赴く機会がありました。拙寺からですと、柳井港まで小一時間、フェリーで二時間余り、更に三津浜港から一時間以上かけての行程です。師は、毎回その道中にこの寄稿文に記させていただいたような話を繰り返し車内にて訥々と話し続けます。

当時は、内心同じ話を聞かされ鬱陶しいと思っていました。今思い起こすと毎通元老師と、修行時代の話を酌み交わすための大切なルーティンワークであつたようです。

瑞應寺様にてお茶とお菓子を賜り「先ずはお互い生きてまた

会えて良かった」と讃えあつてから話が始まります。ご縁の恵光老師を始め諸老師方々との思い出話や、古参、同安居の方の安否情報など、取り止めのない話となされますが、その間二人の笑顔が絶える事はありませんでした。

毎回、そうした二人が交わす思ひ出話の中で必ず出る話題があります。それは、ある日の朝課前の事です。朝課に随喜するたために支度をしていた師に対し、一光老師から声がかかります。あまり機嫌の良くない声の調子だったので恐る恐る老師の前に参じると、「隆邦さん、通元の姿がない。またどこかに隠れて朝課に出ないつもりに違いない。探してきてくれ。」と言われました。師は「はい」と即答はしたものの当時多くの修行僧がいた中で、

何故私を直接名指したのか疑問に思つたそうです。「わかりました、しかし何故私にそれを命じられるのですか」と聞いたところ一光老師は、「あなたと通元は同じ体型だから同じ所に隠れるでしょう」と返答されました。

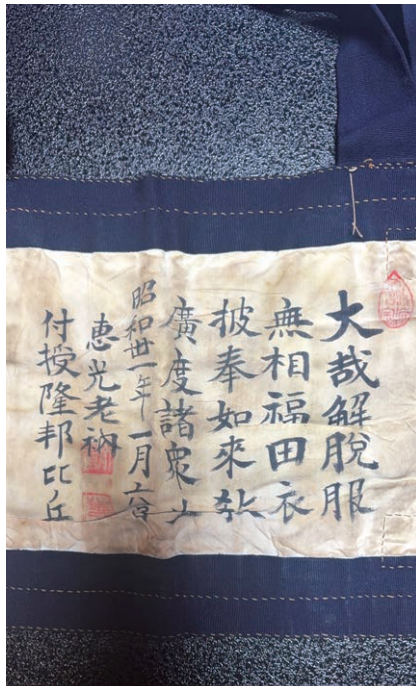
それを聞いた師は、少しムツとしたそうですが、一光老師が冗談交じりで言われたに違いないと思ひ直して、少し笑みを浮かべた途端「早く探してこいと云っているんだ」とあの眼光鋭く睨み付けられてこれは本気だと感じ、朝課までに見つけないと自分まで「ヤバイ！」ことになると思ひ急いで探し始めました。何力所か探しましたが、見つける事ができなかった師でしたが、もしやと思う所がありました。そこは正に自分が見つけた取つて置き場所にて、ここに隠れたら誰も分からないと自負する所です。そして、結果的には正にその場所に通元老師はこっそりと居られたのでした。二人は毎回、この話をして笑い声が一段高くなります。

場所については、通元老師の名譽のためにあえて記す事は致しませんが、拙はお二人のやりとりから師を名指しで探すように任じた一光老師は、多分にこ

の取つて置きの隠れ場所も既知であつたと思います。何故なら、一光老師が自ら通元老師を見つけて出し、叱責するよりも事前に師に委ねて二人が速やかに朝課に随喜して、事なきを得られるように仕向けられたと思うからです。

末筆に、少しだけ通元老師と拙のご縁を記する事をお許し下さい。拙が大本山永平寺の役寮を拝していた際、通元老師は本山顧問をお勤めでした。時折所用にて来山された時、お部屋にご挨拶にいくのですが、毎回拙が名乗る前に老師の方から隆邦さんのお弟子さんだろ。覚えてるよ。あの小柄な人から、こんなに大きなお弟子さんが育つたのはびっくりしたからね。で、名前は？」と言われるのでした。今もある意味、直接名前を覚えていただくより有り難いことだと思う次第です。

聞くと、この文章は令和八年の一月号に載るかもとの事。読み返すと、とてもお正月に相応しいとは言えない内容にて申し訳ありません。お詫び申し上げます。 洋典拝





小 参



臘八摂心



臘八摂心

釈尊成道の聖日を因み、十二月一日(月)より八日(月) 暁天まで、恒例の臘八摂心を修行。会中の供養施主に深謝。

令和七年臘八摂心

供養施主(順不同)

- |           |             |              |             |             |             |             |             |              |             |                |                      |
|-----------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|----------------|----------------------|
| 当 山 総代会 殿 | 愛 知 山 梅花講 殿 | 香 川 県 森川法雲 殿 | 愛 媛 県 宝泉寺 殿 | 愛 媛 県 禅興寺 殿 | 鳥 取 県 玉泉寺 殿 | 広 島 県 東光寺 殿 | 広 島 県 長福寺 殿 | 愛 媛 県 田中淑恵 殿 | 宮 城 県 東禅寺 殿 | 愛 媛 県 ひかり幼稚園 殿 | 他、野菜、果物、菓子等<br>多数頂戴。 |
|-----------|-------------|--------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|--------------|-------------|----------------|----------------------|

成道会・断臂摂心

十二月八日(月) 臘八摂心大開静、堂内朝課に引き続き成道会献粥諷経、小参(吉松維那)。行鉢は乳粥謹喫。午前、成道会正當諷経(金岡山主)。当山梅花講員による詠讃歌の中、出班焼香を厳修。

九日(火)、震旦二祖慧可大師断臂報恩の一夜摂心。翌朝三時覚眠、暁天只管打坐。続いて二祖忌献粥諷経、二祖忌正當諷経(門原後堂)を厳修。



成道会



ランタン

銀杏感謝録

- |           |           |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |          |           |           |          |          |          |          |          |          |           |           |          |          |           |           |          |          |          |           |           |            |
|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|------------|
| 愛媛県 千葉元夫殿 | 神奈川県 東昌寺殿 | 福岡県 大満寺殿 | 長崎県 洪徳寺殿 | 愛知県 慈眼寺殿 | 愛媛県 法眼寺殿 | 愛媛県 道旧寺殿 | 愛媛県 宗安寺殿 | 愛媛県 高德寺殿 | 愛媛県 安養寺殿 | 愛媛県 地藏寺殿 | 愛媛県 大通寺殿 | 愛媛県 西願寺殿 | 愛媛県 義安寺殿 | 長崎県 皓台寺殿 | 鹿児島県 大中正殿 | 愛媛県 大澤慎士殿 | 愛媛県 観音寺殿 | 愛媛県 秀禅寺殿 | 広島県 長全寺殿 | 北海道 総泉寺殿 | 広島県 長福寺殿 | 広島県 東光寺殿 | 愛媛県 神野英雄殿 | 徳島県 坂本純香殿 | 新潟県 広厳寺殿 | 佐賀県 功岳寺殿 | 長野県 村上泰助殿 | 愛媛県 戸梶元齋殿 | 愛媛県 北谷寺殿 | 愛媛県 宝蔵寺殿 | 広島県 無量寺殿 | 香川県 矢野征郎殿 | 鳥取県 松田從郎殿 | 愛媛県 竹林千代恵殿 |
|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|-----------|-----------|----------|----------|----------|-----------|-----------|------------|

(令和七年十二月十九日受付迄)

銀杏は諸般の事情により、今後は隔月にさせていただきますので御理解いただきます。よろしくお願いいたします。

十二月の日鑑

- |       |           |          |     |              |       |                           |           |        |                           |                |           |           |              |
|-------|-----------|----------|-----|--------------|-------|---------------------------|-----------|--------|---------------------------|----------------|-----------|-----------|--------------|
| 一日 祝祷 | 臘八摂心(八日迄) | 七日 日曜参禅会 | 成道会 | 八日 断臂摂心(十日迄) | 震旦二祖忌 | 十二日 大本山永平寺従業員研修旅行 瑞應寺参拝団① | 十四日 日曜参禅会 | 祝祷・略布薩 | 十五日 大本山永平寺従業員研修旅行 瑞應寺参拝団② | 十八日 観音講(仏教勉強会) | 廿一日 日曜参禅会 | 廿八日 日曜参禅会 | 卅一日 略布薩、除夜の鐘 |
|-------|-----------|----------|-----|--------------|-------|---------------------------|-----------|--------|---------------------------|----------------|-----------|-----------|--------------|

一月の予定

- |            |           |                |         |          |          |             |           |        |         |             |           |          |           |         |
|------------|-----------|----------------|---------|----------|----------|-------------|-----------|--------|---------|-------------|-----------|----------|-----------|---------|
| 一日 大般若祝祷諷経 | 歳朝人事・年賀ノ拝 | 二日 角野消防団初祈禱講書始 | 三日 寿餅ノ拝 | 四日 日曜参禅会 | 五日 年頭総代会 | 七日 おねはん受付開始 | 十一日 日曜参禅会 | 祝祷・略布薩 | 十五日 水施食 | 十六日 観音講・勉強会 | 十八日 日曜参禅会 | 十九日 寒行托鉢 | 廿五日 日曜参禅会 | 卅一日 略布薩 |
|------------|-----------|----------------|---------|----------|----------|-------------|-----------|--------|---------|-------------|-----------|----------|-----------|---------|